

れました。また、当時の美掃工では、下層屋根と胴体部分に施された約四千個の金物の美掃が行われましたが、解体しないと取り外しできない箇所にある金物の美掃は、今回初めてのこととなります。

搬出作業では、初めに約八百kgもの重さがある上層屋根が取り外されました。チェーンブロック(大型の鎖を滑車に組み合わせた装置)で吊り上げ、宮殿から取り外



少しずつ下層屋根が解体されていきます

された後、二十人がかりで台車に乗せて搬出されました。

次に、下層屋根と胴体部分が解体されましたが、一つひとつ構造を確認しながら工法を模索するという手探りの作業となりました。

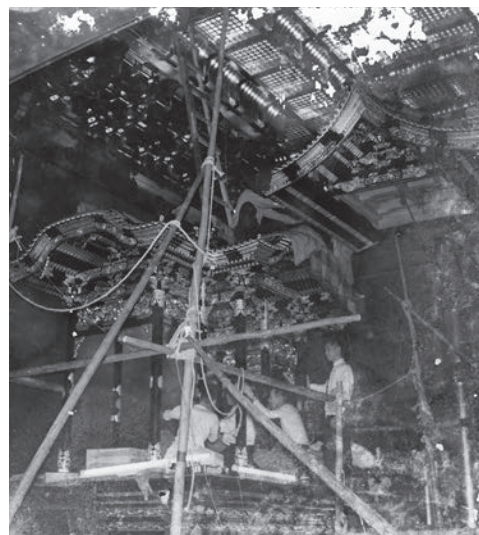
その作業の過程において、阿弥陀堂の宮殿は実際の木造建築に近い構造を持っていることが明らかになりました。通常、宮殿の製作は、上層屋根、下層屋根、胴体部



解体された下層屋根と柱等の胴体部分

分がそれぞれ別々に作られた後に須弥壇上で組み合わせる工法が用いられます。しかし、阿弥陀堂の宮殿は、柱、組物、桁(柱間をつなぐように組物上に架け渡された木材)、屋根といった、実際の建築部材を下から順に組み上げる工法が用いられており、仏具というよりは、むしろ須弥壇上に木造建築物を建てるように作られたと考えられます。

解体にあたった作業員の方からは、「現代では、一般の宮殿は「宮殿師」という専門の職人によって作られるが、阿弥陀堂の宮殿は建築に関わる大工によって作られた可能性がある。また、現代において木造建築に近い構造で宮殿を作ることが技術的に可能であったとしても、費用が膨大なものとな



約50年前の上層屋根搬出を記録した古写真(提供 京仏具 株式会社 小堀)

るため、阿弥陀堂のものと同等の宮殿を作ることは大変困難である」といった声がかげられました。真宗門徒の帰依処である真宗本廟の中で御本尊阿弥陀如来像を安置する大変重要な場所として、技術を尽くし実際の仏堂に少しでも近いものを目指した当時の方々の篤い思いをうかがい知ることが出来ます。

今後、搬出された宮殿は、御影堂の厨子と同様、工房において梅酢や活性水を用いて洗浄し、補修がなされ、再建当時の輝きを取り戻す作業が進められます。

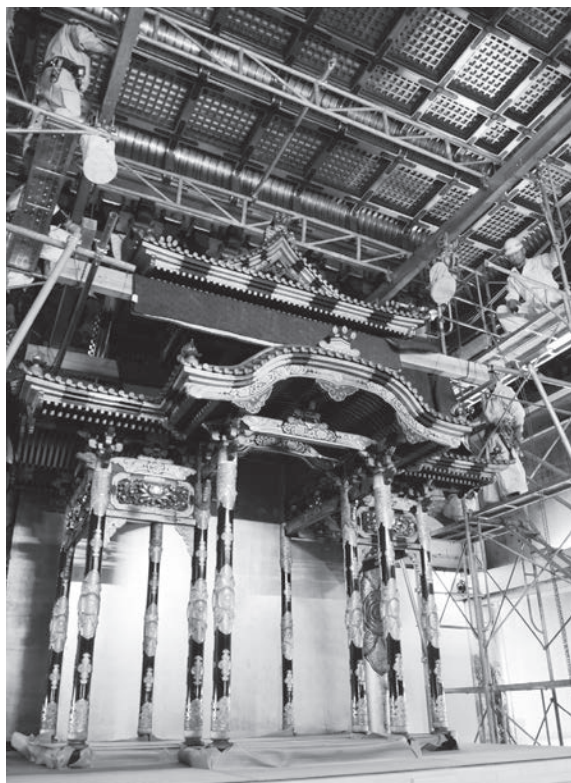


御修復のあゆみ

く 伝承された先達の願い

阿弥陀堂 宮殿の搬出が完了

阿弥陀堂内部の長押(柱同士をつなぐ木材)や折障子(内陣と外陣との境目の障子)、天井や組物(柱上部の前後左右に組まれた木材)周りに施されている金物には、

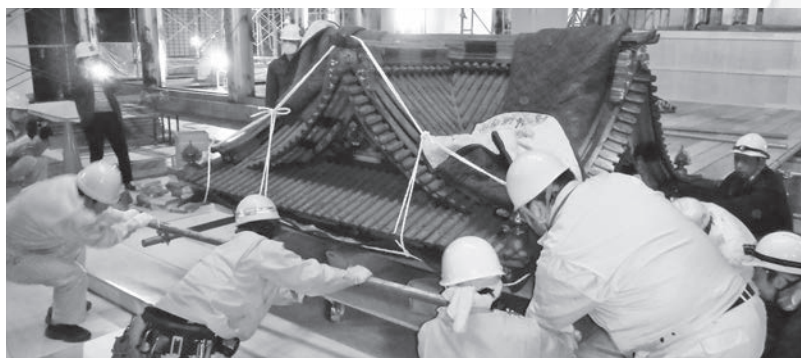


阿弥陀堂 解体前の宮殿と周囲に設置された足場

蠟燭や灯明による煤、埃の原因とした汚れが全体に見られます。阿弥陀堂御修復工事では、こうした内陣・外陣に施された金物や漆塗部分の美掃工事が行われます。

金物は洗浄のほか、破損状況に応じた補修がなされますが、取り外しが可能なものについては、位置を示す番号を付し、取り外してから作業を行っていきます。御本尊阿弥陀如来像を安置するために内陣中央の須弥壇上に置かれている宮殿も、先般四月に解体及び搬出が行われました。

宮殿は、胴体部分と二層の屋根で構成されています。上層屋根については、約五十年前の宗祖親鸞聖人七百回御遠忌の際に外部に搬出され美掃工事が行われましたが、当時、下層屋根と胴体部分の搬出は行われませんでした。今回の御修復工事では、明治の再建以来初めてそれらの解体及び搬出が行わ



上層屋根の搬出作業の様子